短歌を味わう

しめやかに雨過ぎしかば市の灯は
　みながらすずし枇杷うづたかし

長塚節

この一首は、第三句と第四句の間に少し長い間を開け、第四句から最後まで流すように読むのが良い。

枇杷という暑い季節の果物が市場にあるような暑いとき、しっとりとした雨がやみ、山盛りに盛られた枇杷に水滴がつき、鮮やかで涼しげに見える。暑いだけによりいっそう涼しげである。第四句と第五句のリズムがよく、そのリズムの良さで涼しさを表しているように感じられる。

（永田陽向）

分類：バラ科ビワ属
原産地：中国（China）南部地方
シーズン：5月～6月頃
主な産地：長崎、千葉、香川

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と
　答える人のいるあたたかさ

俵万智

この一首は第三句と第四句の間に少し休止をおいて読むと良いだろう。ちょっとした文のちがいが分かるはずだ。

このときの自分は、とても寒く、近くにいる友達に「寒いね」と言った。友達は「寒いね」と返した。そんな人がいるというあたたかさと、自分と同じことを思っている人がいるというあたたかさが、自分の心を温めたと思われる。しかし、この「あたたかさ」は、ストーブなどに当たって体が温まった物とは別物だ。

作者は、心のあたたかさを伝えたかったのだ。私はそう思う。

（浅野仁美）

短歌を味わう

夜更けて寂しけれども
時により唄ふがごとき長き風音

佐藤佐太郎

この短歌を第二句の終わりを少し伸ばして読んでみると、夜が更けた寂しさが伝わってくる。だんだん夜が更けてきて、心細く、寂しくなってきた。そんなときに、風がなだめるように、あやすように、長く風が吹いて、まるで唄っているかのように聞こえてくる、と感じたことを詠った短歌だ。

第二句までは、作者が感じた寂しさを歌っているため、少し暗い響きを持っている。しかし、第三句からは、風が唄っているかのように聞こえて、少し作者も落ち着いてきた感じがする。この短歌は切ないような歌だと私は思う。（岩田結季乃）

短歌を味わう

観覧車回れよ回れ
想ひ出は君には一日我には一生

栗木京子

この一首では、憎め「回れよ回れ」の後に、少し長い休止をおいて読んでみよう。「想ひ出」の様子がよみがえってくるようである。

この歌は、自分が片思いをしている心の声が歌われている。二人で観覧車に乗っている。この瞬間は、君にとってはたった一日の想い出。でも、自分にとっては一生の大切な想い出。

「回れよ回れ」というところで、「回れ」という言葉が二度も使われている。ここが、少し印象的である。恋愛心が歌となっているので、わかりやすい短歌である。

（竹本杏美）